20210131レムナント教会1部

**崩壊(挫折)の正体（創世記11:1-9）**

　16世紀頃に、宗教の圧制、抑圧から私たち人間を解放させようということで、ルネッサンス運動が起きました。つまり、宗教のいろいろな導きではなく、人間自分の内側を啓もうすることでよりよい世界を作ることができるとユートピアを夢見るようになりました。その結果、印刷の技術や様々な分野において発展を遂げ、人々は自分たちが思い描いた通りにユートピアはやってくるだろうと浮かれるようになりました。しかし、そのうち第一次世界大戦、第二次世界大戦が勃発し、世界中の人が殺される悲惨なことを経験します。そこで人の期待、人の希望、人が人の内側を磨くことによって夢見ていた理想というものが完全に粉々になり崩壊してしまいました。

そして、今までの歴史はそのようなことの繰り返しで、その歴史の繰り返しの始まりこそ今日の聖書にあるバベル塔の事件です。

人々があるところに定住して、お互いに知恵を出し合って頑張っていたら、今まで使っていた粘土を瀝青に変え、また石の代わりにれんがを使うようになり、どんどん変化を遂げて良い方向に向かっていきました。そこで彼らは”私たちがより頑張って研究を重ね、特に互いに知恵を絞りあうようにすれば、もうユートピアも夢ではない”と調子に乗るようになったのです。それから人々は”私たちが町を建てて、それが天の頂まで届くように頑張ろうじゃないか”と叫びました。人の数も増え、知恵も成長して、お互いに力を合わせ協力するムードになり、ある程度の結果も見たので調子にも乗り、天の頂までと自信満々と叫びました。

しかし神様は人々の言葉を混乱させその夢を砕き、人々を全地に散らされました。その結果バベル塔は崩壊し夢は挫折に終わりました。

バベル塔の崩壊は

1.人が夢見るユートピア(希望)は幻に過ぎないことを悟らせる神様の警告です。

人は努力すればより良い人間になれると信じて頑張ります。そしてある程度の変化が見られので、つい調子に乗り、人を内側からより磨いて啓蒙すれば(教育)より良い人生、完璧に幸せな人生になれると夢見るようになります。

今の話を聞きながら、皆さんの頭の中で「それのどこが悪いの。どこがおかしいの」という思いがあるかもしれません。それほど私たちは世の流れに染まっていたことを念頭に入れてお話を聞いていただきたいと願います。

それから、文明が発展し、つまり技術が発展して、科学が進歩を遂げると、よりよい世界を作ることができるという夢を見ます。それで発展により力を入れて、発展を遂げることによりこの世界が変わっていき、より便利になることを目の当たりにします。そうすると、また調子に乗って、このままずっと発展を遂げていけば、結局はこの世界はユートピアに変わるだろうと希望をもち、理想を夢見るようになります。それに一つの国や個人だけが頑張るのではなくて、世界中が知恵を集めて協力すればより早く、より完璧にこの夢が実現できるだろうと思うのです。(国連というのは、この世界のために必要があるからできたという面もありますが、その裏の思想を見るとこういう思想があるものなのです。)とにかくこの世はそのような調子に乗っていきます。人間が頑張ることによって十分、幸せな人生になれるし、人が頑張ればより理想的な世界は可能なのだと思い込み、それを理想として掲げて夢見るようになることが今までの歴史です。

しかし、少しでも素直になり、目を覚まして見ると、確かにその夢は格好良いお話でもっともなお話、また耳障りのいいお話に違いありませんが、そのうち必ず限界にぶつかり、それが粉々になって崩れて行ったということも歴史の正直な現実です。幻の夢とそれが砕かれること、それが歴史の繰り返しです。

例えば、ローマという国は、ローマは一日でできたものではない、だからローマは永遠なりと自慢して、皆そう信じていました。しかし、ローマはどうなったでしょうか。その後は、イギリスが世界中にイギリスの領、植民地を持つことによって、イギリスは日が沈まない国と言われていました。理想の国のように見えました。そのイギリスは今どこに行ったのでしょうか。そして、現代の代表的な国がアメリカです。だから、アメリカは憧れの国で、世界中から移民が絶えませんが、このアメリカもいつかは衰退していくことに間違いありません。これが歴史です。

私たちが生きるのは短い期間なので、今の世界がずっと続くかのように思いますけど、ちょっとだけでも歴史を勉強するとそれは誤解だとすぐにわかることです。けれども、このような明白な事実を目の当たりにしても、人間はなぜかそれを認めようとしません。「それでも頑張ればより良い世界は作れる。より良い幸せな人生は訪れてくる」という夢を諦めずまた崩壊を経験します。これが今まで歴史の繰り返しです。

そして、このような歴史の繰り返しの背後にヒューマニズムという思想があります。ヒューマニズムという思想は、今日のバベル塔からも見られるように、人間至上主義なのです。人間が最高なんだという思想がヒューマニズムです。それを裏返しますと、神様無くしても十分可能なんだという思想なのです。そして、そこに留まらず、ヒューマニズムの本音は「人間は神ではないのか」ということです。そこまで行くのがヒューマニズムです。だから、神様がご覧になったときには人間の高慢なのです。そして人間のそのような高慢がどこから始まったのかは、ご存知のようにこの地球が誕生する以前に、神の国において天使の一人が神になろうと反乱を起こして天から追い出され、悪魔サタンになったのが始まりで、その悪魔がアダムとエバの方にやってきて、「おまえらが神になれるよ」と誘うことによって人類は崩壊していくようになりました。それがずっと続いてます。私たちはそのような世界に埋もれていた者なので、ヒューマニズムが当たり前に聞こえるし、格好良く聞こえるかもしれません。でも、それがバベル塔の思想であり、神様がご覧になったときには、人間を滅ぼすことで真っ赤な嘘なので、人を愛していらっしゃる神様はそのまま放っておくわけにはいきません。その高慢さというものは、裏返しますと悪魔、サタンと直結しているものなので、だから神様はそれを崩壊させます。

人間が頑張ることによって、よりよい人生、よりよい人間、よりよい世界が可能なのだという思想は聖書とは真逆の思想で、人間の高慢であり、偽りで幻に過ぎないものです。

なぜなのでしょうか。人間は頑張ればある程度変化が見られます。教育によっていろいろな改善は可能になります。それにもかかわらず、神様のほかには解決不可能な罪を抱えているのが人間です。それが解決できない限りは、ヒューマニズムという思想は人を滅びに引っ張っていくものになります。残念ながら今世界はそのヒューマニズムが支配しています。空中の権威を持つ支配者(サタン)が作り出したものかヒューマニズムなのです。「幸せ、よりよい世界は神様なくても十分可能なのだ。この世界を変えることは可能なのだ。私たちが神ではないのか」という思想です。それゆえバベル塔、ヒューマニズムは崩壊するのが当然なのです。それは神がこの世界、人を愛していらっしゃるという裏返しなのです。ですから、バベル塔が崩壊したということは、バベル塔ではなくて人間の高慢さが粉々になったというメッセージにねります。これが正体です。人間の夢の挫折の正体、人間が夢見ていた理想の崩壊の正体は、いま申しました通りの内容です。崩壊と挫折の裏にはサタンが潜んでいます。

なので、

2.この崩壊、挫折の本当の正体は、Onlyイエスの他には道がないことを知らせ、それを通してOnlyイエスに向けさせ、Onlyイエスを告白させることによって、滅ぶるしかないこの世ではなくて、神の国へと招かれる、神様の導き、神様のお招きなのです。

イエス様がこの世に来られて、最初に発した言葉がこれです。悔い改めなさい。天の御国が来たのだから。この世ではなくて、天の御国の中に入らないといけないから悔い改めなさい。すべて、疲れて重荷を負っている者、ヒューマニズムに騙されて崩壊と挫折に溺れている人々に向かって、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。心の貧しい者は幸いです。天の御国がその人のものだからです。天国がこの世にやって来たのだとおっしゃいました。それがOnlyイエスを通して私たちに与えられる神様の最高のプレゼントなのです。誰でもこのヒューマニズムから抜け出して、Onlyイエス、イエス・キリストを信じて受け入れる者は天の御国がその人のものになります。つまり、

ローマ8：2のように、今まで知らずに捕らわれて縛られて滅びるしかなかった死と罪の原理から完全に断ち切られて解放され、死からいのちに移るようになること、これが神の国です。その神の国はOnlyイエスを通して、聖霊があなた方の内側に宿るようになり、神の神殿となることです。そのような人間、そのような者に造り変えられること、これが神の御国だと言います。その神の国は、牢屋の中に入れられていても、死の影の谷を歩いていても、そのような状況が手を出すことができない、犯すことのできない国なのです。 Onlyイエスを通してその天の御国を所有するようになります。この地上にあるどうのこうのと全く次元の違う、エペソ1：3、天にある霊的すべての祝福をいただくようになる、それが神の国なのです。天にある霊的すべての祝福をいただき、その主人公になることを天国と言います。

刑務所の中でパウロが言いました。ピリピ4：12-13、「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。ここでパウロが言っていた貧しさ、豊かさ、飽くこと、飢えること、乏しいことなどいろいろな状況がありますが、そういうものによって崩れることができない国が天国なのです。それがOnlyイエスの中から与えられるものなのです。その国に入らないといけません。ニコデモに言いました。”おまえは律法学者で聖書を通読しているかもしれません。指導者であり、まじめに頑張っていたかもしれません。しかし、天の御国はおまえとは関係ないよ。神の国はそういったことによって得られるものではない。それらによってこの世で夢見ることは嘘であり、崩壊するしかないものなのだ。イエス・キリストを通して、水と御霊によって神の国に入ることが人間に必要なものなのだ。”と言われました。

その神の国は死んで行くだけのところではありません。イエスの中にあるもので、イエスを信じる者は天の御国を所有することになり、それは世にあるものによって犯されることのないものなのです。そして、天の御国を所有している者が、結局この世から離れるときに、ピリピ3：20にあるように、天の御国の国籍を持って本物の天の御国に移るようになります。

それだけではなく、時が来たらイエスの再臨とともに黙示録21：1-2「また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た」。それが最終的な天の御国です。新しい天と新しい地、そこに正確に導き入れられることが保証されている、その希望を持ってこの世の中で今自分の所有となっている世のなにものにも犯されることができない天の御国の中を歩く者がOnlyイエスを告白しているクリスチャンなのです。その新しい天と新しい地というところは、またこのように言われています。「そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである」（黙示録21：3-4）。そこが本物の天国なのです。この地上にいながらもイエスの中にあってクリスチャンひとりひとりにその天の御国が与えられているので、それをこの地上で味わうことができます。だから、パウロのように刑務所の中でも、どんな境遇であっても私は構わないと言うことができる人間として生きることができるのです。それは努力、教育、発展によってではなくて、Onlyイエスによってイエスの中にのみあるものなのです。だから、嘘っぱちのヒューマニズムに捕らわれ、調子に乗って勘違いしているところに神様は崩壊、挫折を許されるわけです。その夢がすべて破れるように。それでOnlyイエスの方に向けられて新しく始められるように。これが神様の配慮なのです。天の御国というものは、その完璧な希望を持ってこの地上で天の御国を味わいつつ歩くものなので、地上で何を食べるか、何を飲むかということを心配したり、目的にする人生は終わりなのです。この地上にいる間は、永遠の天国に行く希望の中で完璧な天の御国を所有しているわけなので、ヒューマニズムに騙されてこの世に希望を託して騙されているたましいに向かって、唯一この自分に与えられている天の御国の祝福を拡散していくこと、これが天の御国なのです。自分以外の他の人に、また、すべての分野において、地理的には地の果てにまで天の御国を広めていく、それが天国というものです。天の御国を所有している者によってそのようになります。そして神様は、その目的のために暗やみの力を縛りあげる権威を与えられ、天使が動員される権威も許していらっしゃいます。それが天の御国というものです。そこに招き入れるために崩壊も挫折も許されて、神様が招待していらっしゃいます。それが崩壊と挫折の理由です。

夢が破れましたか。この世界を見ながら理想が粉々に砕かれたのでしょうか。個人的にどのような夢、どのような理想があって、それが壁にぶつかっているのでしょうか。挫折があるのでしょうか。崩壊を経験していらっしゃるのでしょうか。そこで溺れていないでよかったと告白してください。よかったと。そのまま調子に乗ってずっと行くと、嘘に騙されて滅びるしかありません。だから挫折した方がよかったのです。粉々に砕かれた方がよかったのです。徹底的にOnlyイエスになることによって新しく人生を始めるために神様が許されたものだと、それが正体だと覚えておきましょう。

そして、先ほど申し上げましたように、 Onlyイエスの中にあって、この地上にいる間にこの世を目的にして世のどうのこうのに縛られ左右されて、未練たらたら執着する獣のような人生ではなくて、Only神の国を目標、目的にして生きる新しい人生をスタートするために挫折と崩壊が許されたということを覚えてください。この神様の招きの声が聞こえないとずっと挫折の沼に溺れたままになってしまいます。そこで恨みつらみにとらわれて生きるようになります。

だからよかったのではないでしょうか。自分で理想を掲げて就職を頑張っていたのにどこに行っても採用されなかった。よかったのではないでしょうか。そこに希望などは元々ありません。Onlyイエスでないと天の御国はありません。

このヒューマニズムこそ世の流れを作った空中の権威を持つ悪魔、サタンが騙している一番大きな嘘だと思います。Onlyイエスを隠すものは、すべてが悪魔のしわざだと判断すれば正解です。

　最後にこのバベル塔の崩壊の正体に目覚めると、信者の存在の理由は、よりよい世界を作ることではなく、サタンの王国を砕いて、神の国が臨まれるようにすることです。教会は市役所や国会とは違うところなのです。そこを改めるようにしていただきたいと思います。

　それから最後にそのために一番大切な、そして、実際的なスタートは何かと言うと、まずクリスチャンの皆さんに、皆さんの人間的などうのこうのと環境とまったく関係なく、Onlyイエスによって約束通りにすでに与えられている天の御国、皆さんよ所有とされた神の相続、天の御国、それを日々喜んで具体的に味わうところからスタートしていただきたいと思います。そうすると、信者の歩みに天の御国を見るようになり、それがどんどん拡散していく、その契約のラインに立つようになるでしょう。そのうち永遠の天国に召され、そして、主の再臨とともに新しい天と新しい地の住人として住むようになるでしょう。

この世に希望はありません。この世はよりよい世界を作るために許されているものではなく、福音宣教のために神様が守っていらっしゃる現場です。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。バベル塔が崩壊したのは、滅びるしかない悪魔に操られた人間の高慢が崩れて行くということでした。その正体を正しく理解して、信者の私たちは改めてOnlyイエスの信仰にしっかり立って、そして信者の存在の理由がこの世ではなくて神の国であることを改める、そのような恵みを与えてくださり、何よりイエスにあってすでに神の国が自分自身に与えられ、天の御国を所有しているｙ小呂小人確信を持って、その神の国に集中できるようにひとりひとりを導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。